



PATHO News

自治医科大学 病理診断部

<http://www.iichi.ac.jp/pathology/>

No.6
2010. 5. 10

病理診断部の仕事の流れ < 細胞診編 >



婦人科の腔スミア（腔液塗抹）から発達してきた細胞診ですが、近年その進歩はめざましく、スクリーニング目的だけではなく、多くの分野で質的診断も求められています。細胞診検査室では、塗抹標本のほか、胸水、腹水などの体腔液、乳腺、甲状腺、リンパ節などの穿刺吸引細胞診検体などを受け、検査／診断を行っています。

2009年度 検体数

検査材料	件数(件)
婦人科	12,433
呼吸器	1,752
消化器	238
泌尿器	1,625
乳腺	242
甲状腺	278
体腔液	1,112
リンパ節	187
その他	555
総件数	18,442

1. 検体処理



【液状検体】

それぞれの検体からプレパラート標本を作製します。



【遠心機】



【検体処理】

2. スクリーニング

腫瘍細胞や腫瘍を疑わせる異常な細胞を識別するほか、経過観察（follow-up）を要する細胞、特異な感染症を示唆する細胞を見つけ出します。



3. 診断&報告



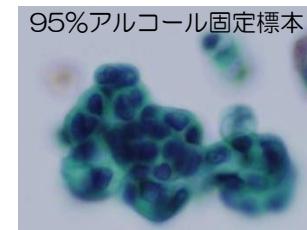
異常所見が検出された標本は、すべて細胞診専門医もしくは病理専門医と供覧し、ディスカッションの後に最終診断を行い報告しています。

細胞診検体提出についてのお願い (o^-^-o)

- 検体採取後は、細胞の変性を防止するため、原則、直ちに病理診断部に提出して下さい。
- 擦過検体（子宮頸・体部など）や穿刺吸引検体（甲状腺・乳腺・リンパ節など）は、スライドガラスに採取検体を塗抹後、直ちに95%アルコール固定液に入れて下さい。標本が乾燥してしまうと、判定困難になってしまいます。

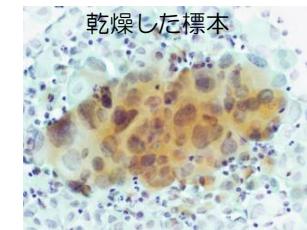


95%アルコール固定液



95%アルコール固定標本

染色性に透明感があり、核所見が見やすい。



乾燥した標本



ホルマリン固定標本

判定困難！！

染色性に透明感がなく、細胞が膨化変性している。良悪性の鑑別に最も重要である核所見が不明瞭である。

- 提出時、検体容器・スライドガラスには、採取部位及び患者名を必ずフルネームで記載して下さい。

- 臨床情報や治療経過、または検査目的・希望の特殊染色などがある場合は、依頼用紙にその旨を記載して提出下さい。

- 液状検体は、受付後に検体処理が必要ですので、17時までに提出して下さい。

- 時間外・休日等の検体提出について
○ やむを得ず直接提出される場合は、必ず事前に病理診断部へ連絡の上、提出して下さい。また、検体の種類にもよりますが、各病棟で検体を冷蔵保存し、後日病理診断部へ提出いただいても結構です。

○ 検体が直ちに提出できない場合は、下記時間以内での提出をお願いします。

- 喀痰・体腔液・・・10時間以内
- 髄液・尿・洗浄液・・・1時間以内
- 脾液・胆汁・・・細胞採取時より検体を氷などで冷却し、すぐに検体処理が必要

※よくある質問

Q: 体腔液検体の提出時、抗凝固剤（ヘパリンなど）をどれくらい入れればよいですか？

A: 体腔液検体は、採取後速やかに病理診断部に提出していただければ、抗凝固剤を入れる必要はありません。

体腔液検体においては、抗凝固剤の作用が弱く、細胞変性を招くことがあるため、原則として抗凝固剤の使用に頼るよりも、採取後の速やかな検体提出を心がけていただくことが重要です。ご不明な点は、病理診断部・細胞診室（内線2257）までご連絡下さい。

検体受付および剖検受付時間

8:30 ~ 17:15 (内線2257)

注) 土・日・祝祭日は剖検のみ受付 (内線2257 or PHS18218)

ニュースレター PATHO News 病理診断部 No.6 2010. 5. 10

発行 : 福嶋敬宜(ふくしまのりよし)

編集 : TEAM
 飛田野清美(ひだのきよみ) 柳田美樹(やなぎたみき)
 だっだっだっだ 田村聖月(たむらみづき) 滝沢晴美(たきざわはるみ)